

平成28年度第4回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成28年10月17日（月） 11：10～12：00

場 所：各コア校（遠隔会議システム利用）

議 題：

1. SPODフォーラム2016について

- ・ SPODフォーラム2016受講者数について 【資料1－1】 …P1
- ・ SPODフォーラム2016事前アンケート集計結果 【資料1－2】 …P5
- ・ SPODフォーラム2016プログラム別アンケート集計結果(満足度) 【資料1－3】 …P7
- ・ SPODフォーラム2016ポスターセッション優秀賞一覧 【資料1－4】 …P9
- ・ SPODフォーラム2016記事（平成28年9月28日付教育学術新聞） 【参考資料1】 …P11

2. SPODフォーラム2017について

- ・ SPODフォーラム2017実施要項（案） 【資料2】 …P13
- ・ SPODフォーラム2016チラシ 【参考資料2】 …P15

3. 平成28年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費について

- ・ 平成28年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費の執行について
【資料3－1】 …P17
- ・ 平成28年度SPOD教職員能力開発経費 申請要領 【資料3－2】 …P21
- ・ 平成28年度SPOD研修物品費 申請要領 【資料3－3】 …P23

4. SPODの取組内容について

- ・ SPODチラシ（案） 【資料4】 …P25
- ・ SPODチラシ（修正箇所） 【参考資料3】 …P27

5. その他

SPODフォーラム2016受講者数について

【受講者数】

区分	教員	職員	学生・大学院生	その他	計
SPOD加盟校	108	194	3	0	305
SPOD加盟校外	83	111	0	4	198
合計	191	305	3	4	503

【開催日別受講者延べ人数】

日程・区分	教員	職員	学生・大学院生	その他	計
8月24日(水)	292	309	3	5	609
8月25日(木)	289	334	0	6	629
8月26日(金)	102	129	0	0	231
合計	683	772	3	11	1469

【参考】SPODフォーラムの受講者数経年変化

開催年	開催大学	開催日程	日数	参加人数					内訳												延べ
									SPOD加盟校						加盟校外						
				合計	教員	職員	学生・ 大学院生	その他	小計	教員	職員	学生・ 大学院生	その他	うち 開催大 学	うち開催 県 加盟校 (開催大学 以外)	小計	教員	職員	学生・ 大学院生	その他	
2016	愛媛大学	H28.8.24 ～ H28.8.26	3	503	191	305	3	4	305	108	194	3		87	88	198	83	111		4	1469
2015	愛媛大学	H27.8.26 ～ H27.8.28	3	488	197	285	0	6	286	112	172		2	74	69	202	85	113		4	1507
2014	高知大学	H26.8.27 ～ H26.8.29	3	437	191	239	0	7	259	112	146		1	106	57	178	79	93		6	1295
2013	愛媛大学	H25.8.20 ～ H25.8.23	4	560	209	312	35	4	369	130	204	35		112	128	191	79	108		4	1538
2012	徳島大学	H24.8.22 ～ H24.8.24	3	496	168	271	53	4	373	129	191	53		103	46	123	39	80		4	1432

SPODフォーラム2016 プログラム別受講者数一覧

平成28年8月26日現在

日時	番号	プログラム名	教員	職員	学生/ 大学院生	その他	計
8月24日(水) 1時限	2401A	社会連携系職員養成プログラムレベルⅠ 地域特性論-地域課題の抽出と住民による解決に向けての合意形成づくり-	10	15	0	0	25
	2401B	大学の危機管理-事例から考えるハラスメント-	10	10	0	0	20
	2401C	大学職員の基礎力を考える	3	27	0	0	30
	2401D	大学組織を理解する	18	34	0	1	53
	2401E	大学における障害学生支援とは? -障害者差別解消法と合理的配慮-	11	34	0	0	45
	2401F	アイスブレイクの技法	25	3	0	0	28
8月24日(水) 2時限	2402A	理工系講義形式授業において学生の学習を促進する授業デザイン	23	3	0	0	26
	2402B	始めよう、仕事の整理と協働	0	24	0	0	24
	2402C	経験から学ぶ力を育てる	10	30	0	0	40
	2402D	反転授業をやってみよう	40	7	0	1	48
	2402E	教育・学修支援を担う図書館員の能力開発-求められる知識・スキルを再考する-	2	47	0	0	49
	2402F	質問を変えると授業が変わる?!!	29	2	0	0	31
8月24日(水) 3時限	2403A	知財リスク対応の基礎知識並びに知財人材育成の授業デザイン	5	18	0	0	23
	2403C	クリティカルシンキングを促す課題設定をしよう	25	1	0	0	26
	2403D	ループリリック評価入門 -考える、つくる、活用する-	29	11	0	0	40
	2403E	大人数講義法の基本	39	18	0	2	62
	2403F	経験学習入門	9	25	0	0	34
8月25日(木) 1時限	2501A	研究指導入門-卒論作成を支援する-	45	2	0	0	47
	2501B	学生対応の心得・入門編 -職員として気がかりな学生とどう向き合うか-	1	23	0	0	24
	2501C	日常の経験知で仮説を立て、学内にあるデータを検証する -データを活用した予防的・開発的学修支援をはじめてみませんか?-	11	18	0	0	29
	2501D	部下を育てる評価のコツ-自己理解と他者理解を踏まえて-	2	22	0	0	24
	2501E	国際連携系職員養成プログラムレベルⅠ 海外派遣入門	18	36	0	2	56
	2501F	コーチング入門	6	29	0	0	35
8月25日(木) 2時限	2502A	グラフィック・シラバスを書こう!	19	1	0	1	21
	2502B	思考プロセスの「見える化」と共有 -話し合いの生産性を高めよう-	15	13	0	0	28
	2502C	始めよう! アクティブ・ラーニング-協同学習・文章作成の技法編-	23	0	0	0	23
	2502E	トップリーダーセミナー 大学ガバナンスとリーダーシップ	18	68	0	1	87
	2502F	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 -物理,化学の実践例より-	28	7	0	0	35
8月25日(木) 3時限	2503G	【シンポジウム】「経験を学びに変える教育と能力開発」	103	115	0	2	220
8月26日(金) 1時限	2601A	視覚障害学生支援の基礎-テキストデータ化の体験-	6	15	0	0	21
	2601B	研究支援職員としての基礎知識-ゼロから始める研究者との協働-	0	14	0	0	14
	2601C	教育データ解釈入門Ⅰ&Ⅱ	18	20	0	0	38
	2601D	ループリリック評価入門 -考える、つくる、活用する-	28	6	0	0	34
	2601E	管理職・監督職のためのリーダーシップセミナー	3	34	0	0	37
	2601F	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計-課題分析図の活用-	21	0	0	0	21
8月26日(金) 2時限	2602A	聴覚障害学生の主体性を引き出す支援-パソコンノートテイクの体験をととして-	5	9	0	0	14
	2602B	ラウンドテーブルこれからのSDを考える	2	20	0	0	22
	2602D	ラウンドテーブル 学生の経験を学びに変える	19	11	0	0	30
合計			679	772	0	10	1464

※ポスターセッションのみ参加(プログラム受講なし)の5名(教員4名、その他1名)を含め、8/24~26延べ参加者数1469名

SPODフォーラム2016事前アンケート集計結果

アンケート回答者数:456名(当日申込みを除く, WEBでの受講申込時に実施)

参加者の属性

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	385	84.4%
② 短期大学	53	11.6%
③ 高等専門学校	15	3.3%
④ その他	3	0.7%
計	456	100.0%

その他:大学コンソーシアム京都(3)

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	128	28.1%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	51	11.2%
③ 学校法人	274	60.1%
④ その他	3	0.7%
計	456	100.0%

その他:大学コンソーシアム京都(3)

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	262	57.5%
② 北海道	2	0.4%
③ 東北	5	1.1%
④ 関東	54	11.8%
⑤ 中部	30	6.6%
⑥ 近畿	39	8.6%
⑦ 中国	43	9.4%
⑧ 九州・沖縄	21	4.6%
計	456	100.0%

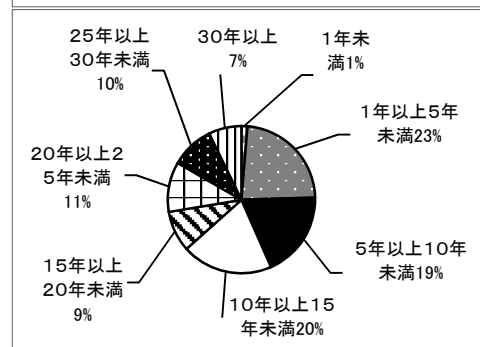
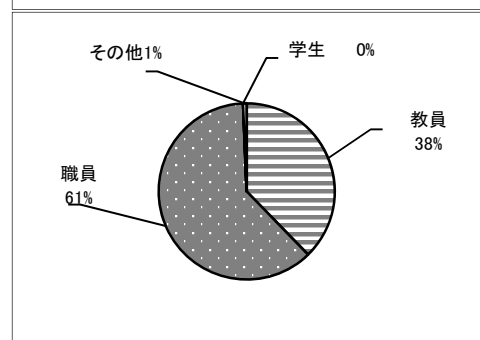
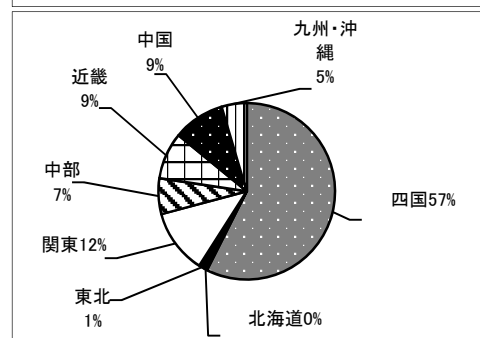
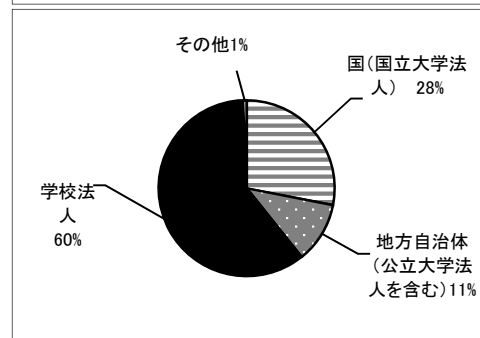
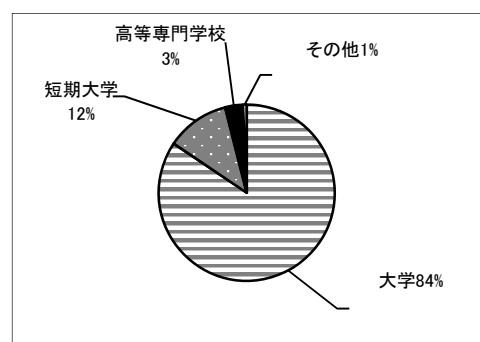
(4) 職種

	度数	割合
① 教員	172	37.7%
② 職員	281	61.6%
③ 学生	0	0.0%
④ その他	3	0.7%
計	456	100.0%

その他:研究員(2),学術研究員

(5) 大学教職員等の経験年数

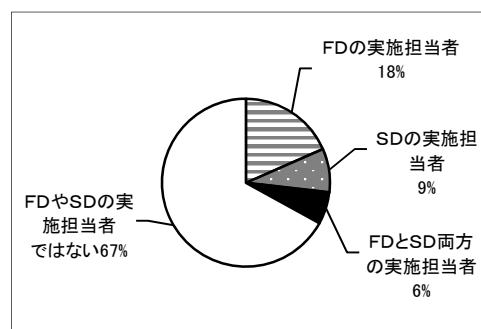
	度数	割合
① 1年未満	6	1.3%
② 1年以上5年未満	106	23.2%
③ 5年以上10年未満	86	18.9%
④ 10年以上15年未満	91	20.0%
⑤ 15年以上20年未満	41	9.0%
⑥ 20年以上25年未満	50	11.0%
⑦ 25年以上30年未満	43	9.4%
⑧ 30年以上	33	7.2%
計	456	100.0%



1. あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

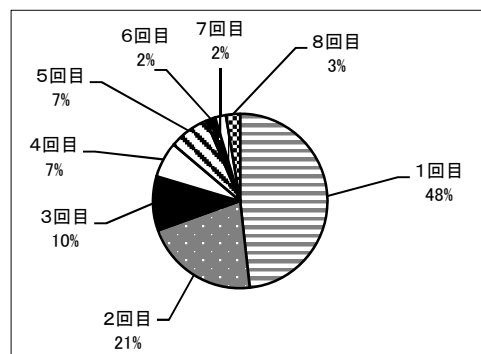
	度数	割合
① FDの実施担当者	83	18.4%
② SDの実施担当者	38	8.4%
③ FDとSD両方の実施担当者	28	6.2%
④ FDやSDの実施担当者ではない	302	67.0%
計	451	100.0%

※5名無回答



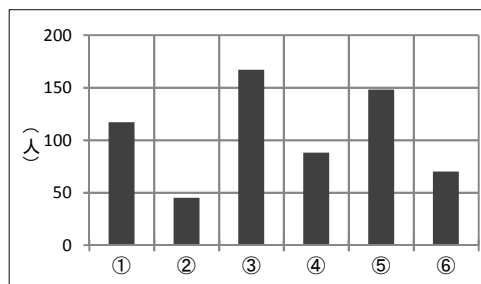
2. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	220	48.2%
② 2回目	97	21.3%
③ 3回目	46	10.1%
④ 4回目	30	6.6%
⑤ 5回目	34	7.5%
⑥ 6回目	8	1.8%
⑦ 7回目	9	2.0%
⑧ 8回目	12	2.6%
計	456	100.0%



3. SPODフォーラムをどこで知りましたか？（複数選択可）

	度数	割合
① SPODホームページ	117	25.7%
② SPODメールマガジン	45	9.9%
③ SPODフォーラムチラシ	167	36.6%
④ SPOD研修プログラムガイド2016	88	19.3%
⑤ SPOD関係者からの案内	148	32.5%
⑥ その他	70	15.4%
アンケート回答者数	456	

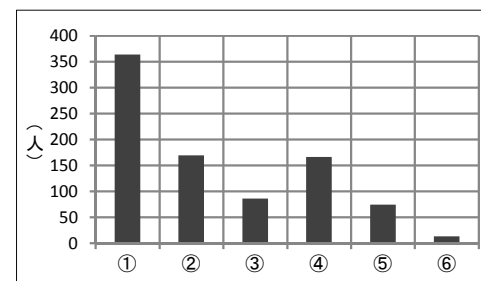


その他の記述内容

- ・ 職場からの案内(25)
- ・ 上司からの案内(8)
- ・ 参加者の口コミ(3)
- ・ あさがおメーリングリスト(3)
- ・ 関係者からの案内(2)
- ・ 大学ホームページ(2)
- ・ ポスターセッションに参加することになったから
- ・ 既に知っていた

4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？（複数選択可）

	度数	割合
① 自分自身の能力開発のため	364	79.8%
② 組織の課題を解決するヒントを得るため	169	37.1%
③ 組織を超えた人脈づくりのため	86	18.9%
④ FDやSDに関する情報収集のため	166	36.4%
⑤ 上司に参加をすすめられたため	74	16.2%
⑥ その他	13	2.9%
アンケート回答者数	456	



その他の記述内容

- ・ 大学研修の一環として(4)
- ・ 参加することが義務づけられている(2)
- ・ ポスターセッションで発表するため(2)
- ・ ポスターセッションで発表することで、現在の仕事について深く考える機会にするため
- ・ 校務で活用するため

SPODフォーラム2016ポスターセッション「優秀ポスター賞」受賞取組一覧

投票場所:ポスターセッション会場(共通講義棟B・2階201講義室)

投票期間:平成28年8月24日(水)17:40 - 25日(木)13:00、表彰式:平成28年8月25日(木)情報交換会時

分類	タイトル	発表代表者			共同発表者
		氏名	所属	SPOD 加盟校	
B	大学教職員の自己啓発を促す図書提案と効果	加地 真弥	愛媛大学	○	
A	金沢大学ケースメソッド実践力強化プロジェクト	松村 典彦	金沢大学		近藤 真史, 三島 卓也(金沢大学)
A	TOEFLチュータープログラム—学習者の経験と内省—	林 千絢	神田外語大学		大場 枝里, 辻 里子, ホール 真由子 (神田外語大学)
B	理工系分野におけるFDプログラム開発と今後の展望	榊原 暢久	芝浦工業大学		吉田 博(徳島大学)

SPODフォーラム2016 ポスターセッション取組一覧

分類A:経験学習 15件

分類B:FD/SD一般 12件

日時:平成28年8月24日(水)17:40~19:00、会場:共通講義棟B・2階201講義室

ポスター 番号	分類	テーマ	発表代表者			共同発表者
			氏名	所属	SPOD 加盟校	
1	B	SPODが及ぼす組織変容の研究	塩崎 俊彦	高知大学	○	杉田 郁代, 立川 明(高知大学)
2	B	大学教職員の自己啓発を促す図書提案と効果	加地 真弥	愛媛大学	○	
3	A	経験則を経験知へ—前例を見直し新たな知の構築へ—	中村 章二	愛知教育大学		
4	B	比治山大学IR委員会における職員育成に係る取組み	松村 さとみ	比治山大学		松村 敏博(比治山大学)
5	B	職員IRフォーラム(SIR)の実践報告	荒木 俊博	淑徳大学		上島 洋佑(金沢大学)
6	A	徳大COC+中期インターンシップ体系化の取り組み	川崎 修良	徳島大学	○	川崎 克寛, 堺 里絵, 森脇 一恵, 宮本 紀子 (徳島大学)
7	A	全学必修科目「地域学実習」実施による学生の意識変化	一色 健司	高知県立大学	○	
8	A	低年次を対象とした東京PBL合宿の効果検証(サービス・ラーニング)	杉田 郁代	高知大学	○	塩崎 俊彦, 池田 啓実(高知大学)
9	A	金沢大学ケースメソッド実践力強化プロジェクト	松村 典彦	金沢大学		近藤 真史, 三島 卓也(金沢大学)
10	A	学科学年横断型PBL科目Co+workでの経験学習	佐伯 亮太	明石工業高等専門学校		平石 年弘(明石工業高等専門学校)
11	A	芝浦工大の体系的PBL学修による人材育成とその課題	坂井 直道	芝浦工業大学		井上 雅裕, 長谷川 浩志, 榊原 暢久, 鈴木 洋 (芝浦工業大学)
12	A	体験学習の体系化—教職協働による仕組みづくり—	高良 要多	桃山学院大学		
13	A	慢性期看護学における行動変容自己実践プログラム	二本柳 圭	高知学園短期大学	○	池田 恵美子, 下元 理恵(高知学園短期大学)
14	A	行動型・参加型学修を基盤とするAL推進の取組	五條 小枝子	県立広島大学		川口 博之(県立広島大学)
15	A	経験とふりかえりで能力を伸ばすサービス・ラーニング	立川 明	高知大学	○	
16	A	国際教育を主眼とした日韓遠隔協働学習授業の構築	大塚 薫	高知大学	○	斎藤 麻子(韓国明知大学校), 林 翠芳(高知大学)
17	A	TOEFLチュータープログラム—学習者の経験と内省—	林 千絢	神田外語大学		大場 枝里, 辻 里子, ホール 真由子 (神田外語大学)
18	B	理工系分野におけるFDプログラム開発と今後の展望	榊原 暢久	芝浦工業大学		吉田 博(徳島大学)
19	B	初年次教育への導入を通じたALの全学的普及の取組	新原 将義	徳島大学	○	久保田 祐歌, 吉田 博(徳島大学)
20	A	演習授業を深い学びへ誘うための試み	長谷川 紀幸	横浜国立大学		
21	B	教職共同による準正課教育のトライアルから恒常化へ	新正 裕尚	東京経済大学		角田 浩司, 久世 泰子, 相澤 伸依, 榎 基宏, 板橋 雄大, 大久保 奈弥, 阿部 弘樹, 清原 文, 田中 理沙(東京経済大学)
22	B	教職員・組織全体の教育力向上に資する取り組み	Mazur Michal	北海道大学		山本 堅一(北海道大学)
23	A	「組織を改善するアクティブ・ランチャミーティングの試み」	青山 貴子	山梨学院大学		石川 勝彦(山梨学院大学)
24	B	Actionに資する教学IR—関西大学におけるオーダーメイド型IRによる取組—	紺田 広明	関西大学		森 朋子(関西大学)
25	B	正課科目における成績と分野横断的能力との相関分析	松本 高志	阿南工業高等専門学校	○	小松 実, 山田 耕太郎, 川畑 成之, 太田 健吾, 菊池 弥生(阿南工業高等専門学校)
26	B	福岡歯科大学におけるディプロマポリシー・学士力の認知度について	内田 竜司	福岡歯科大学		児玉 淳, 赤間 尚希, 川辺 里美(福岡歯科大学)
27	B	男女共同参画推進に関する学生への意識啓発	桐木 陽子	松山東雲短期大学	○	郡司島 宏美(愛媛大学)

S P O D フォーラム 2 0 1 7 の開催について（案）

（趣旨）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝S P O D）」の企画として、S P O D の実施する研修プログラム等を集中的に提供する。

（主催）

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

（日時・会場）

日時 平成 2 9 年 8 月 2 3 日（水）～ 8 月 2 5 日（金）

会場 徳島大学 常三島キャンパス（徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地）

（全体テーマ）

“Feeling”と“Thinking”を“Learning”につなげる

（シンポジウム）

学生が感じ、考え、それを学びにつなげる教育と学習支援

（参加対象者）

1. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の教職員
2. 1. 以外で、高等教育機関に所属している方及び高等教育行政に携わっている方
※ S P O D 加盟校の参加者を優先する。
※ 民間企業に勤務している方の参加はお断りする。

（内容）

あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供する。

（事務担当）

徳島大学学務部教育支援課，S P O D 事務局（愛媛大学教育学生支援部教育企画課）

（備考）

8 月 2 3 日に F D 担当者研修実施予定

(別紙 1 - 1)

平成 28 年度 S P O D 教職員能力開発経費 申請要領

【教職員能力開発経費とは】

今後の S P O D 事業の充実を図るための、教職員の能力開発に係わる以下の経費。

研修参加旅費（研修料込み）

条件：平成 28 年 11 月 9 日(水)以降に申込み可能で、平成 29 年 3 月 12 日(日)までに完了する研修。

※研修参加後 1 ヶ月以内に、A4 用紙 1 枚程度で報告書の提出をお願いします。

※旅費は、愛媛大学の規定に基づきお支払いいたします。

【対象者】

S P O D 加盟校教職員

【申請締切】

平成 28 年 10 月 31 日（月）17:00

【申請方法】

別紙「S P O D 教職員能力開発経費申請書」に必要事項をご記入の上、メールにて S P O D 事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）までお申込みください。その際、件名は「S P O D 教職員能力開発経費申請（ご所属：お名前）」としてください。

【結果通知】

結果の如何を問わず、平成 28 年 11 月 8 日（火）（予定）までに、申請者にご連絡いたします。

【その他留意事項】

希望者多数の場合は、事務局において優先順位をつけ対象者を選考いたします。

優先順位（予定）

1. 平成 28 年度において、S P O D 内講師派遣事業、ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ、S P O D フォーラム、その他 S P O D 主催等の F D / S D プログラムの講師をお務めいただいた方
2. 上記以外の S P O D 加盟校教職員

平成28年度SPOD教職員能力開発経費 申請書

機関名・所属		職名	
氏名			
Mail		電話	

1. 研修参加旅費(研修料込み)等概要

第1希望	研修等名		
	研修等概要		
	今回の研修がSPOD事業に資する理由 今後のSPOD事業実施にあたり、参考となる理由を記載してください	例：研修内容や実施体制を確認し、SPOD講師派遣プログラム実施時の参考とする。 研修に参加し新たな情報を得ることで、次年度以降のSPODプログラムの開発や、フォーラム運営時の参考とする。	
	開催日程	平成 年 月 日()〇時 ~ 平成 年 月 日()〇時	
	希望旅程	平成 年 月 日() ~ 平成 年 月 日()	
	開催地	例) 東京都〇〇区〇-〇	
	交通手段	例) 自宅(〇〇市)~〇〇駅:JR → 空港バス → 航空機:〇〇空港~〇〇空港 → 空港バス・市内バス → 研修地	
	見積額 (概算)	交通費	(円)
		研修料	(円)
第2希望	研修名		
	研修概要		
	今回の研修がSPOD事業に資する理由 今後のSPOD事業実施にあたり、参考となる理由を記載してください	例：研修内容や実施体制を確認し、SPOD講師派遣プログラム実施時の参考とする。 研修に参加し新たな情報を得ることで、次年度以降のSPODプログラムの開発や、フォーラム運営時の参考とする。	
	開催日程	平成 年 月 日()〇時 ~ 平成 年 月 日()〇時	
	希望旅程	平成 年 月 日() ~ 平成 年 月 日()	
	開催地	例) 東京都〇〇区〇-〇	
	交通手段	例) 自宅(〇〇市)~〇〇駅:JR → 空港バス → 航空機:〇〇空港~〇〇空港 → 空港バス・市内バス → 研修地	
	見積額 (概算)	交通費	(円)
		研修料	(円)

※研修内容の分かるチラシ等を添えて申請してください。

2. SPOD研修講師について(いずれかにチェックをお願いします。)

平成28年度中にSPOD内講師派遣、ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ、SPODフォーラム、その他SPOD主催等のFD/SDプログラムの

- ☐ 講師等を担当した(担当する予定である)
- ☐ 講師等を担当していない

(別紙 2－1)

平成 28 年度 SPOD 研修物品費 申請要領

【研修物品費補助とは】

今後の SPOD 事業の充実を図るための、SPOD 加盟校で開催される教職員の能力開発に係わる研修・セミナー（以下研修等という）の実施にかかる以下の経費。

物品等購入補助

必要物品等の購入に係る補助。原則、愛媛大学において物品を購入、送付することとなります。

【補助条件】

1. 平成 28 年 11 月 16 日（水）～平成 29 年 3 月 31 日（金）までに実施される教職員の能力開発を目的とした研修等であること。
2. SPOD 加盟校に開放される研修等であること。また、その旨を実施要項等に明記の上、SPOD 事務局まで送付すること。ただし、研修プログラムガイド 2016（P17～P65）に記載された SPOD 加盟校開放プログラムの場合は実施要項の送付は不要とする。

【対象機関】

SPOD 加盟校

【申請締切】

平成 28 年 10 月 31 日（月）17:00

【申請方法】

別紙 2－2 をご記入の上、メールにて SPOD 事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）までお申込みください。その際、件名は「SPOD 研修物品費申請（大学名）」としてください。

【結果通知】

結果の如何を問わず、平成 28 年 11 月 8 日（火）（予定）までに、申請機関にご連絡いたします。

【その他留意事項】

申請多数の場合は、事務局において優先順位をつけ対象研修を選考いたします。

優先順位（予定）

1. 研修プログラムガイド 2016（P17～P65）に記載された SPOD 加盟校開放プログラム
2. 上記以外の SPOD に開放されるプログラム

平成28年度SPOD研修物品費 申請書

事務 担当者	機関名 所属		氏名	
	Mail		電話	

第一希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
第二希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
第三希望	物品名		品番	
	数量		金額	
	利用目的			
記入例	物品名	パワーポイント対応 レーザーポインタ	品番	●●●●
	数量	1	金額	●●●●円
	利用目的	●月●日開催の●●研修の講義に利用予定		
記入例	物品名	●● サインペン 太字 8色	品番	●●●●
	数量	8	金額	●●●●円(1セットあたり)
	利用目的	●月●日開催の●●研修のグループワークに利用予定		

注) 同等の別商品の購入となる場合がありますのでご承知おきください。原則、愛媛大学において物品を購入、送付することとなります。

実施要項を添えて提出してください(研修プログラムガイド2016 P17～65に記載のプログラムについては提出不要)

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

URL <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

(ネットワーク略称**SPOD** = **S**hikoku**P**rofessional and **O**rganizational **D**evelopment Network in Higher Education)

学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった
高等教育のプロフェッショナルの輩出

愛媛…12校

- 大学 ⑤
 - ・愛媛大学(国)
 - ・愛媛県立医療技術大学(公)
 - ・聖カタリナ大学(私)
 - ・松山大学(私)
 - ・松山東雲女子大学(私)
- 短期大学 ⑤
 - ・今治明德短期大学(私)
 - ・環太平洋大学短期大学部(私)
 - ・聖カタリナ大学短期大学部(私)
 - ・松山東雲短期大学(私)
 - ・松山短期大学(私)
- 高等専門学校 ②
 - ・新居浜工業高等専門学校(国)
 - ・弓削商船高等専門学校(国)

香川…6校

- 大学 ③
 - ・香川大学(国)
 - ・香川県立保健医療大学(公)
 - ・高松大学(私)
- 短期大学 ②
 - ・香川短期大学(私)
 - ・高松短期大学(私)
- 高等専門学校 ①
 - ・香川高等専門学校(国)

高知…6校

- 大学 ③
 - ・高知大学(国)
 - ・高知県立大学(公)
 - ・高知工科大学(公)
- 短期大学 ②
 - ・高知短期大学(公)
 - ・高知学園短期大学(私)
- 高等専門学校 ①
 - ・高知工業高等専門学校(国)

徳島…8校

- 大学 ④
 - ・徳島大学(国)
 - ・鳴門教育大学(国)
 - ・四国大学(私)
 - ・徳島文理大学(私)
- 短期大学 ③
 - ・四国大学短期大学部(私)
 - ・徳島工業短期大学(私)
 - ・徳島文理大学短期大学部(私)
- 高等専門学校 ①
 - ・阿南工業高等専門学校(国)

ネットワーク加盟校の構成

四国地区の高等教育機関が加盟
ネットワーク参加校総数 32校
(大学15、短期大学12、高等専門学校5)

SPODの概要

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)は、四国地区の32の国公立大学・短期大学・高等専門学校によって構成される教職員能力開発の大学間ネットワークです。平成20年度に文部科学省戦略的大学連携支援事業の採択を機に設立されました。本事業は平成22年度で補助金交付が終了しましたが、平成23年度から各加盟校の分担金による自主運営体制のもと、取組が継続されています。

SPODは、ネットワークの活動を通じて、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出することを目指しています。4県に位置するネットワークコア校を中心に、加盟校が協力・連携して、教職員の能力開発(FD・SD)のプログラムやサービスを提供しています。

取組内容

FD・SD共通

- 1 SPODフォーラムの開催
- 2 コンサルティング・講師派遣事業
- 3 FD・SDに関する調査研究
- 4 情報提供サービス

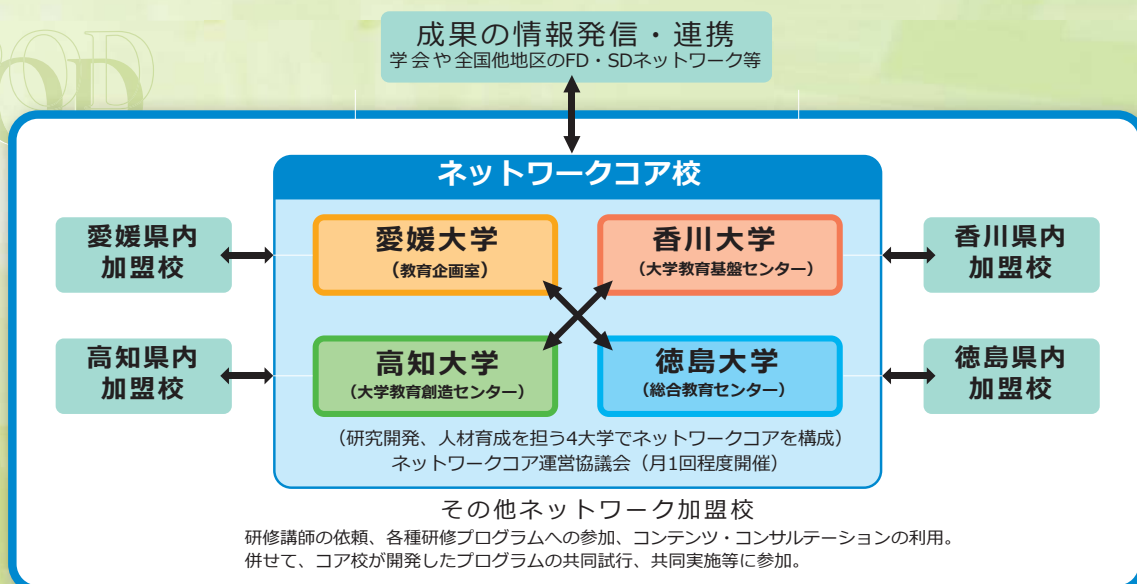
FD

- 1 FD担当者の養成
- 2 新任教員研修の実施、公開
- 3 ティーチング・ポートフォリオ研修
- 4 各加盟校におけるプログラムの公開

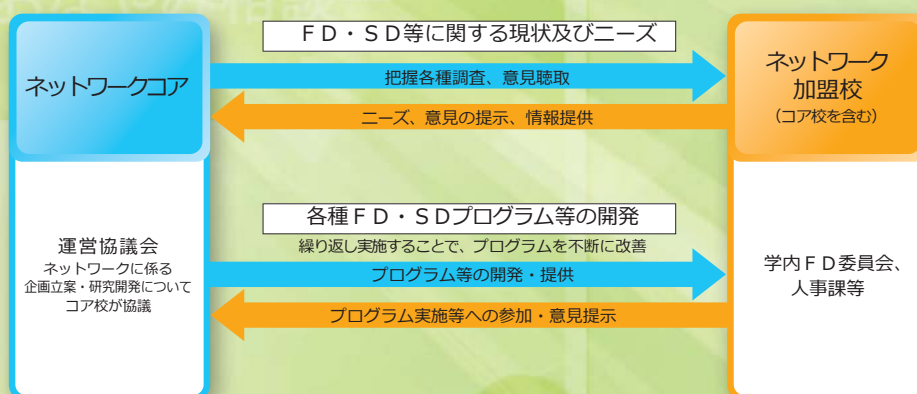
SD

- 1 SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施
- 2 次世代リーダー養成プログラムの実施
- 3 講師養成によるSDの継続的な実施
- 4 SPOD-SDCの輩出

ネットワーク運営体制



① ネットワークコア、加盟校間での連携



② 加盟校相互での連携

研修講師派遣、先進事例実地調査、遠隔会議システム等を活用した情報交換 等

実績・成果

■ 集中日程によるFD・SD研修を行うSPODフォーラムの実施

フォーラム2009 (参加者延べ約980名)、2010 (参加者延べ約1,000名)、2011 (参加者延べ約1,300名)、2012 (参加者延べ約1,400名)、2013 (参加者延べ約1,540名)、2014 (参加者延べ約1,300名)、2015 (参加者延べ約1,500名)を開催。参加者の97%から有意義又は満足との高い評価を得ている。

■ 多種多様な研修プログラムの実施

加盟校が参加可能なFD・SDプログラムを網羅的に掲載した統一ガイドブック「研修プログラムガイド」を作成・配付することにより、平成27年度は延べ2,500名以上の教職員が参加した。

■ FDプログラムの標準化

ネットワークコア校において、ほぼ共通の目標、内容、日程での新任教員研修を実施している。どのコア校の研修に参加しても同様の効果を得ることができる。

■ 教職員によるSDプログラムの開発・実施

教職員が、大学、短期大学、高等専門学校のニーズを取り入れたSDマップを教職協働で完成させ、マップに基づき開発した研修プログラムを実施している。SD研修プログラムを担当できる職員 (講師養成) を育成するための研修も実施し、SPODで講師を務めている。



- ・小規模校が単独で開催することが難しい研修を実施
- ・FD・SDに関する最新の話題、課題、考え方などの情報の共有が可能